小　論　文

（医　学　部）

― 2月8日 ―

下の文章は、小説「赤毛のアン」の終盤における有名な一節です。アンが奨学生として決まっていた進学を諦め、老いた養母のもとに残って教師になることを決心した場面で、アンが養母に語ったものです。これを読んで感じたことについて、具体的な例や経験を交えて述べてください。

「いま曲がり角にきたのよ。曲がり角をまがったさきになにがあるのかは、わからないの。でも、きっといちばんよいものにちがいないと思うの。それにはまた、それのすてきによいところがあると思うわ。その道がどんなふうにのびているかわからないけれど、どんな光と影があるのか—どんな景色がひろがっているのか—どんな新しい美しさや曲がり角や、丘(おか)や谷が、そのさきにあるのか、それはわからないの」

モンゴメリ著　村岡花子訳『赤毛のアン』(新潮文庫) 抜粋